

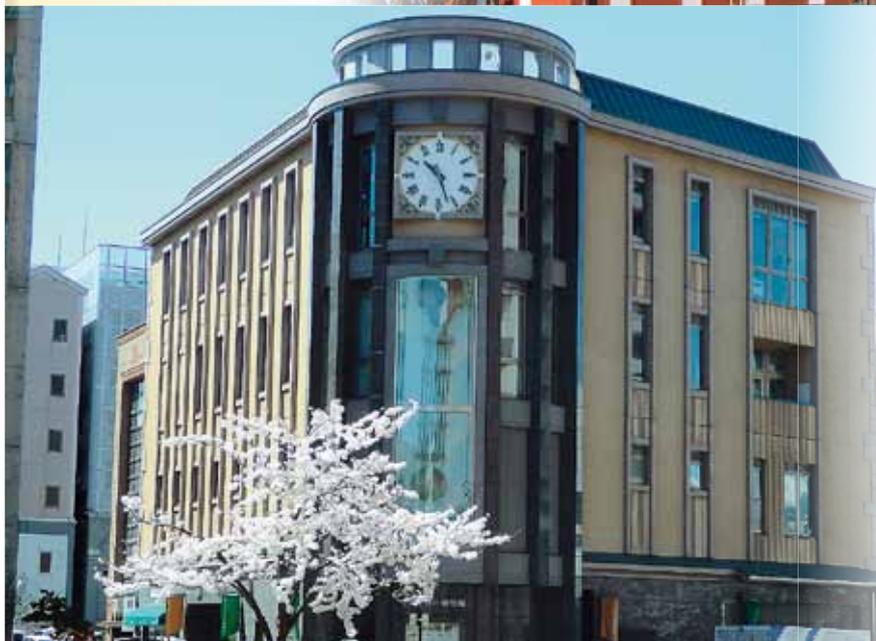
あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.211 2017.7.1

山と自然博物館
開館10周年



時計博物館
開館15周年



松本市山と自然博物館は平成19年5月3日に、松本市時計博物館は平成14年9月1日に開館しました。
この夏、各館において節目の年を記念した特別展を開催します。
※平成29年度に松本市立博物館本館・分館で実施する特別展・企画展は「松本市市制施行110周年記念」事業になります。

もくじ

誌上博物館 ◇ 松本市市制施行110周年記念特別展「山岳画家 武井真激」……2-3
夏期特別展「時計博物館開館15周年記念 振り時計の世界」……4
松本市市制施行110周年記念「第7回 戦争と平和展」……5
松本市立博物館「戦災から遠く逃れて」
松本市歴史の里「非戦～木下尚江の訴え」

博物館TOPICS ◇ 「文学に登場する昆虫たち～ホメロスとヘッセ」……6
「旧制高校と東京帝国大学展」
「涼やかなぬくもり ガラスの器」……7
まつもとの七夕2017
ガイドコーナー はんでんぼく ……8

松本市市制施行110周年記念特別展「山岳画家 武井真澁^{しんちょう}」



1 武井真澁

武井真澁(1875～1957)は、豊田村(現在の諏訪市)出身の山岳画家です。東京美術学校の鑄金科に在籍し、後に文化勲章を受章する鑄金工芸家の香取秀真とともに学びました。卒業後は、小山正太郎等に師事して絵画を学び、画家として活動します。

明治33年(1900)、当時松本城の二の丸にあった松本中学校(現在の松本深志高等学校)で図画教師として教鞭をとります。この間の教え子には、郷原古統、河越虎之進など、多くの画家がいます。

大正3年(1914)に教職を辞してから上京し、作品制作活動を続け、とくに山岳・高山植物画などの絵画を多く残しています。

上京後もたびたび信州を訪れ、長野県の山々を描いていたようです。少しでも金銭がたまると、すぐにリュックサックを背負って信州へ行ってしまったという逸話が残されています。

昭和20年(1945)5月に東京で空襲にあい、その後は疎開のため宗賀村・洗馬村(いずれも現在の塩尻市)で暮らしています。昭和30年に東京、翌年に千葉へ転居し、その地で他界しました。

武井真澁の絵は、「山岳の形象と色調、それを描き出して、更にそれよりも一層山岳の深奥な神秘的な気分を浮び上がらせる」(文学博士 吉江喬松)、
「山雲の真情を捕えて逃す所がない」(中央気象台長 藤原咲平)、
「山岳がまことに生きている物に感じられる」(早稲田大学教授 窪田空穂)などと評価されています。



武井真澁(昭和12年、個展記念写真から)

2 山

武井は、何度も山に登り、絵画を描いています。山に登るきっかけは、戸隠山で植物採集をおこなった時に見た、大雷雨のあとに光る山々の美しさに魅せられたためだといわれています。南アルプス・中央アルプスをはじめとして、焼岳、槍ヶ岳、燕岳、富士山など、県内外の様々な山を描いた作品が残っています。スケッチの多くには、描いた日時や場所が記されており、武井の几帳面な性格がうかがえます。

画材に加えて、大きな写真機も背負って登山をしていた時期もあるようですが、写真では山の真の姿は現せないといって写真をやめてしまったという逸話が残っています。

登山時に持って行ったと思われる手帳には、白黒のスケッチが描かれています。「セピヤ」「褐灰」など、色についてのメモもあり、作品制作の参考にしたと思われます。また、日記のように、出発時間や経路、費用等について書かれた部分もあります。昭和29年8月には、「二十八日快晴、穂高槍雲多ク晴レズ已ヲ得ズ下山ニカ、ル 九時半下山にカ、リ午後四時半上高地ニ到着 五時半ノ松本行ノ自動車ニ乗ル」等と書かれており、武井の旅程を追うことができます。



手帳のスケッチ(昭和11年)



穂高潤沢岳にて展望(昭和11年)

3 絵画

武井は、山だけでなく、植物・動物・石・雲など、山で出会ったと思われる様々なものを描いています。これらの絵は、鋭い観察眼で捉えられており、山の絵では、描かれた形や重なりから、その風景を見た位置を推測することができるほどです。

この正確性は、多くの専門家に絶賛されています。第5代中央気象台長の藤原咲平は、気象の専門家でもあまり見ることができないような気象現象を武井が描いていることを指摘し、雲を最も正確に描ける画家として、武井の見る目の正確さを賛美しています。武井は一時、中央気象台から仕事を依頼され、山や雲などのスケッチを納めています。武井の絵画は、芸術的な価値だけでなく、細密画として学術的価値もあったことが推測されます。また、植物画についても、植物学者の牧野富太郎に高評を得て、展覧会への出品を勧められています。植物のスケッチを見ると、花はもちろん、葉の形やつき方などが、様々な角度から精緻に描かれており、中には葉の上に薄紙を押し当てて鉛筆等で擦り、写し取ったものが貼られている



ミヤマダイコンソウ(大正9年、ハヶ岳硫黄岳)

ものもあります。

中学校で図画教師として勤めていた武井は、多くの教え子を世に輩出しています。武井真激関連資料の中には、教え子から送られた手紙も残されています。晩年、武井の制作資金を集めるために、教え子が中心となって「武井真激先生後援会」を興しており、寄付金で真激の絵画「日本アルプス大観絵巻(穂高大観)」を買い上げています。購入された作品は、松本博物館(現在の松本市立博物館)へ寄贈されました。現在、その作品は松本市美術館へ移管されています。

今回展示する主な資料は、武井真激のご遺族から、資料寄贈の申し出をいただき、平成24年(2013)と28年にお預かりしたものです。卷子・掛軸のほか、スケッチ・手帳・スクラップブックなど、約1,900点に及びます。昨年度は、第1回「山の日」記念全国大会関連行事として、その一端を公開しましたが、今回の展覧会では、より多くの資料を展示しますので、この機会にぜひご覧ください。

(松本市立博物館 / 丸山和子)

松本市市制施行110周年記念 山岳画家 武井真激

[会 期] 7月15日(土)～9月24日(日)
[会 場] 松本市立博物館 2階特別展示室
[料 金] 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

記念講演会

「登った、描いた、詠んだ 山の絵描き・武井真激」

[日 時] 8月26日(土) 午後1時30分～3時
[会 場] 松本市立博物館 2階講堂
[料 金] 常設展示入館料
[講 師] 「武井真激電子資料館」館長 丸山和夫氏

夏期特別展「時計博物館開館 15 周年記念 振り時計の世界」

1 時計の黎明

古代では、人間は日々の生活において一日を細分することなく、太陽が昇っている昼間は労働の時間、太陽が沈み夜になると休息の時間と、太陽の運行に合わせた暮らしをしていました。そのような生活の中から生まれてきた天文学・数学的知見によって作られたのが日時計です。最初の日時計は紀元前 2,000 年頃の古代エジプトで生まれたとされています。やがて、夜間や屋内でも使える水時計が作られます。これは容器に入れた水が穴から流れ出る量が一定であることを利用していました。『日本書紀』には日本で記録に残っている最古の時計「漏刻（ろうこく）」が登場しますが、これは水時計です。他にも燃料が燃え進む速さを利用した火時計や、砂の落下による砂時計など、様々な時計が作られました。これらは限定的な条件で限られた時間のみを示す仕組みのものでした。



庭園用日時計

2 機械時計の誕生・発展

機械時計が使われ始めたのは、13 世紀末の北イタリアもしくは南フランスの修道院だと言われています。そこでは、日々のミサを定められた時間どおりに行う必要があったため、昼夜や天気に係らず正確な時間を知らせてくれる時計が求められました。そのため、当時の機械時計には鐘かねが付いており、この鐘が自動的に打ち鳴らされてミサの時間が知らされました。英語の「clock」（時計）という言葉は、ラテン語の「clocca」（鐘）という単語を由来としています。



木製掛時計

機械時計には、時計を動かす動力源と時刻を表示する指針が必要ですが、それらを直接に連結させると、動力が無くなるまで指針が回転してしまいます。指針が一定の速度で規則正しく動くためには、動力の伝わり方を調節する調時機構が必要でした。

製作年が分かっている初期の機械時計としては、1370 年にフランス国王シャルル 5 世（1338 ~ 1380）がドイツのヘンリー・ド・ヴィックに作らせた、宮廷の塔時計があります。この時計は、後世の改造を受けながらパリの高等法院に残っていますが、約 250kg の重さの錘おもりを動力とし、調時機構に棒天符てんぷ（分銅の

ついた横木）を使っています。動力に錘を使う仕組みは、塔時計などの大型時計には適していましたが、室内時計や小型時計には向いていませんでした。

16 世紀になると、錘に代わってゼンマイ（長いリボン状の鋼を渦巻き状に巻いた、ばねの一種）を動力とする時計が作られるようになりました。これにより時計は小型化し、やがて懐中時計、腕時計等の携帯時計へと発展していきます。

3 振り時計の誕生

時計に格段の精度をもたらしたのは、振り子でした。

イタリアの物理学者・天文学者のガリレオ・ガリレイ（1564 ~ 1642）は 1581 年に、ピサ大聖堂で揺れるランプを見て振り子の等時性を発見したといわれています。振り子の等時性とは、振り子の長さが同じならば、振り子の振り幅が小さい範囲では錘の質量や振り幅の大きさに関係なく、同じ周期で揺れるという法則のことです。錘を付けた約 1m（97.85cm）の振り子の一振りは 1 秒になります。



大型置時計

その後、オランダの物理学者・天文学者のクリスチャン・ホイヘンス（1629 ~ 1695）により、1656 年に振り時計が製作されました。ホイヘンスは土星の衛星タイタンの発見、土星の環の解明をしたことでも知られていますが、ヒゲゼンマイを調時機構とした時計を初めて製作した人物でもあります。棒天符に代わり振り子を調時機構に用いたことにより時計の精度は飛躍的に向上し、1日に1時間以上の誤差があった精度が1日に10分程度になったといわれています。

やがて、水銀振り時計や総体振り時計、カッコウ時計等、機械としての精度向上はもちろんのこと、見た目の趣向も凝らされた様々な振り時計が作られるようになりました。

本展では、松本市時計博物館の様々な振り時計を展示し、振り時計の歴史・魅力をご紹介します。

（時計博物館 / 竹内祥泰）

時計博物館開館15周年記念 振り時計の世界

[会 期] 7月22日(土)~9月3日(日)

[会 場] 時計博物館 3階企画展示室

松本市市制施行 110 周年記念「第 7 回 戦争と平和展」

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

戦争と平和展 戦災から遠く逃れて

[会 期] 7月22日(土)～9月3日(日)

[会 場] 松本市立博物館 1階ロビー

戦争と平和展は、平成 23 年度に開催された「国連軍縮会議 in 松本」を契機に、松本市立博物館で毎年開催している展覧会です。第 7 回を迎える今回は、疎開をテーマとした展示を実施します。

疎開とは、戦災による被害を避けるため、人員・建物・生産地を都市部から移動させるもので、昭和 19 年（1944）ころ、日本本土への空襲が激しくなると、政府により組織的に行われるようになりました。

松本では、昭和 19 年から東京都世田谷区の学童疎開を、温泉旅館や寺院などを利用して受け入れました。授業は付近の国民学校で行われましたが、引率の教員は食料の調達などに奔走し、翌年には塩尻や下伊那への再疎開を強いられるなど、苦労が絶えなかったようです。

また、知人等を頼った自主的な疎開も行われ、洋画家の石井柏亭や、『苦の世界』で知られる小説家の宇野浩二などが松本へ避難しています。

展示を通して、前線の兵士だけでなく、子どもや老人の日常まで否応なしに変えてしまう戦争の影響力の大きさについて考えてみてください。

（松本市立博物館／赤羽裕幸）



疎開児童の日課を記した手紙(市立博物館蔵)

松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515

戦争と平和展 非戦～木下尚江の訴え～

[会 期] 7月22日(土)～9月3日(日)

[会 場] 歴史の里 展示休憩棟

木下尚江（1869～1937）は、明治 2 年（1869）、松本藩士木下秀勝の子として松本で生まれました。現在、その生家が歴史の里に移築され、松本藩の下級武士の暮らしを今に伝えています。

普通選挙運動、廃娼運動、足尾鉍毒問題、日露戦争での非戦論などの活動を行った木下のことを、当時の松本の人々は「政府に盾突くことばかりしている」として、「木下尚江を生んだことは松本の恥である」とさえ考えていたようです。しかし、戦後、木下の活動とその考え方は改めて評価されています。

木下は、明治 36 年から、当時勤務していた毎日新聞の紙面で非戦の論説を書いています。5 月 11 日の『戦争人種』は、「不幸にして日本人は世界の好戦者なり」の一文で始まります。そして「吾人は世界の同志と共に声を合わせて戦争の非義を叫び、万国軍備の廃滅を唱えるものなり、これ断じて人類の罪悪なればなり」と戦争を人類最大の罪悪であると主張しました。また、「今や国家と仮称せる階段方便のために、かえって目的たる人類相愛の平和を攪乱す」として、国家のための戦争が、かえって国

家が守るべき人々の平和を乱していると言いました。9 月 22 日には『国家最上権を排す』と題し、「非戦論の要諦は『不義』にあり、『不利』のごときはそも末節の末節のみ」と主張しています。また、戦争は、「国家の御為」と言いながら、結局は一部の軍人や商人が貧しい人々を犠牲にして利益を得ており、「国家の権威を誇張して最大犠牲を要求するもの」で「最大最悪なるもの」としています。翌年 1 月からは非戦小説『火の柱』の連載が始まり、後に幸徳秋水・堺利彦らと立ち上げた平民社から文庫本として発行されました。

この時代、社会が戦争一色になっているなか、「戦争反対」を訴えることは国民全体を敵に回すようなものでした。こうしたなかで主張し続けた、木下の非戦論とはどんなものだったのでしょうか。本展では、100 年以上前の木下の非戦論を通して、戦争と平和を考えます。

（歴史の里／千賀康孝）



木下尚江

開館 10 周年記念特別展 「文学に登場する昆虫たち～ホメロスとヘッセ」

西洋の神話や文学にはさまざまな昆虫が登場します。例えば、古代ギリシアの詩人ホメロスの化身とされるアポロチョウは、ギリシア神話に登場する太陽神アポローンに由来しています。昆虫たちの学名や星座の名前の多くが、ギリシア神話の神々にあやかって付けられています。



アポロチョウ



ヘルマン・ヘッセ

また、中学校の国語の教科書に長年掲載され、日本人になじみの深い小説家ヘルマン・ヘッセ（1877～1962）の『少年の日の思い出』にも、さまざまな昆虫たちが登場しています。

本展では、詩人ホメロスが著したとされているギリシア神話の登場人物と昆虫の関わりや、少年ヘッセが見た昆虫の世界について、さまざまな昆虫標本や写真パネルで紹介いたします。

今年の夏は、博物館で昆虫にふれながら、海外の神話や文学に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

開館10周年記念特別展 「文学に登場する昆虫たち～ホメロスとヘッセ」

[会 期] 7月15日㊦～9月24日㊦ 月曜日休館

[会 場] 山と自然博物館 2階常設展示室

[料 金] 通常観覧料（大人300円、小人無料）

ギャラリートーク「物語の中の昆虫たち」

[日 時] 7月30日㊦ 午後2時～午後3時30分

[会 場] 山と自然博物館 2階常設展示室内特別展展示スペース

[料 金] 常設展示入館料

[講 師] 日本昆虫協会理事 新部公亮 氏

旧制高等学校記念館 Tel.0263-35-6226

旧制高校と東京帝国大学展

官立大学は高等教育機関の中心であり、進学には難関の旧制高校入試を突破する必要がありました。我が国最高の教育機関とされる東京大学（戦前は東京帝国大学）に入学するにあたって、全国で35校の旧制高等学校を卒業することが必要な条件でした。その代表である第一高等学校は東京帝国大学に隣接する向ヶ丘にあって向陵が一高の代名詞になりました。

東京帝国大学の各学部の内、農学部だけは元の内務省農事修学場時代から駒場にあり、不便を感じていました。大正12年（1923）9月関東大震災が起こり、大学の華麗な建築群は全壊し、一高のシンボル時計台も大破して工兵隊により爆破されました。他の教室なども大きな被害をうけ、ここで農学部と敷地交換の協

議が始まりました。昭和10年（1935）9月一高生は軍事教練用の武器輸送の名目で全員武装して本郷の校舎を後にし駒場へ向かいました。

今回の企画展では、以上のような旧制高校と東京帝国大学の歴史を、写真と共に紹介します。



震災前の東京帝国大学



第一高等学校時計台の爆破

旧制高校と東京帝国大学展

[会 期] 7月15日㊦～9月24日㊦ 月曜日休館（祝日の場合は翌日）

[会 場] 旧制高等学校記念館1階ギャラリー

[料 金] 無料（常設展は通常観覧料）

企画展「涼やかなぬくもり ガラスの器」

松本民芸館の創館者丸山太郎は、「ガラスの美」という文章を昭和41年(1966)の『民藝』8月号に載せています。それによると、丸山は当時ガラスの美しさに強く心をひかれていたようで、家業で明治時代からガラス器やランプ、ガラス板を扱っていたにもかかわらず、家に売れ残ったガラス器も望まれるままに友人に譲渡してしまったことを悔やんでいます。

吹きガラスの言い知れぬ暖かみと掌に納めたいような人の心をやわらげてくれる不完全の美はまさに丸山太郎の好みといえるでしょう。

後年、太郎は、雑誌『信濃路』第33号(昭和54年1月発行)の「ちきりや閑話 32話 夢の又夢」でガラスの館を作ることを夢見しています。曇りガラスの外壁の六角か八角のガラスの殿堂。中に入ると、

陳列されたガラス器が透過光線により色や形を様々に変化させ、色彩のシンフォニーに包まれて階段を上がっていく。

そんな太郎の果てしなく広がる夢に思いをはせながら、民芸館のガラスの美をお楽しみください。



ガラス瓶

企画展「涼やかなぬくもり ガラスの器」

【会期】7月25日(火)～10月29日(日) 月曜休館(休日の場合は翌日)

【会場】松本民芸館

【料金】通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

松本まるごと博物館連携事業

まつもとの七夕2017

松本市立博物館	Tel.0263-32-0133
松本市はかり資料館	Tel.0263-36-1191
窪田空穂記念館	Tel.0263-48-3440
重文馬場家住宅	Tel.0263-85-5070

松本の風物詩～松本のまちを彩る七夕人形・笹飾り～

松本地方には、七夕人形を軒先に飾り、ほうとうやまんじゅうを供える全国でも珍しい風習が江戸時代から続いています。博物館では今年もまちなか展示を行うほか、博物館連携事業として4館で七夕人形の展示を行います。

まちなか展示

松本駅から、大名町など博物館周囲の中心市街地に七夕人形や笹飾りを飾ります。

会期 7月7日(金)～8月13日(日)

会場 中心市街地各所

町屋で楽しむ七夕さま

蔵の町・中町で、松本の伝統的な七夕の雰囲気味わえます。

会期 7月1日(土)～8月20日(日)

会場 はかり資料館

料金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)

星に願いを

記念館や空穂生家で、松本の伝統的な七夕の雰囲気が味わえます。

会期 7月1日(土)～8月20日(日)

会場 窪田空穂記念館

料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

※空穂生家は無料

古民家で楽しむ七夕さま

本棟造りの古民家で、松本伝統の七夕人形を鑑賞ください。

会期 7月1日(土)～8月20日(日)

会場 馬場家住宅

料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)



関連イベント

ほうとうサービス

松本では七夕に小豆あんをあえたほうとうを食べる風習があります。ご賞味ください。

①馬場家住宅・はかり資料館

8月6日(日)午前10時～ ※ほうとうがなくなり次第終了。

②松本市立博物館

8月7日(月)午前10時～ ※ほうとうがなくなり次第終了。

市民学芸員による七夕人形作り講座

月遅れの七夕に向けて、紙でかんたん七夕人形を作ってみませんか。

開催日 8月6日(日)、7日(月)

会場 市立博物館

料金 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

七夕人形作り講座

七夕人形キットを使って本格的な七夕人形を制作します。

開催日 7月9日(日)

会場 馬場家住宅

料金 1,100円(材料費)及び通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

四賀化石館から ☎0263-64-3900

四賀化石館夏休み企画「SUNSUN三葉虫」

三葉虫は古生代の代表的な海洋生物で、約3億年も繁栄し、その種類は1万種を超えているといわれています。今回の企画では、世界最大級約70cmのレプリカをはじめ、不思議でかわいい三葉虫を30点ほど展示します。

日時 7月19日(水)～8月31日(木)
会場 四賀化石館 1階ロビー
料金 通常観覧料(大人300円、小人150円)

夏休み3講座

申込み 7月8日(土)午前9時から電話で四賀化石館へ

①三葉虫のジオラマ作り

せつこうで型をとった三葉虫に色をぬり、石や砂、木などを用いて、三葉虫の世界を作ります。

日時 7月22日(土)午前10時～11時30分
会場 四賀化石館 1階ロビー
定員 20名
対象 小学生以上
料金 500円

②微化石モンスターを探せ

300万年前の砂の中から小さな化石を探します。

日時 8月1日(火) 午前10時～11時と午後1時～2時
会場 四賀化石館 2階学習室
定員 20名
対象 小学生以上
料金 無料(通常観覧料)

③化石クリーニング体験

たがねとハンマーで石の中に隠れている化石を少しずつ掘り出します。

日時 8月8日(火)午前10時～11時30分
会場 四賀化石館 2階学習室
定員 20名
対象 小学生以上
料金 500円

山と自然博物館から ☎0263-38-0012

自然観察講座「バタフライガーデンをつくろう！」

自宅の庭に蝶の食草(食樹)や吸蜜植物を植え、蝶を呼び寄せる庭づくりをするので、どのような植物を植えたらいいかを学ぶ講座です。

日時 7月8日(土)午前9時～11時30分
会場 山と自然博物館
定員 15名
対象 小学生以上の子どもと保護者・大人一般
料金 大人300円、中学生以下無料
講師 保科守宏氏、土田秀実氏(松本むしの会幹事)

持ち物 筆記用具など
申込み 電話で山と自然博物館へ

自然観察講座「動物たちの落としもの!？」

アルプス公園小鳥と小動物の森で観察会を行います。

日時 7月30日(日)午後1時15分～3時
会場 アルプス公園(小鳥と小動物の森周辺)
定員 15名
対象 一般
料金 大人300円、中学生以下無料
講師 吉川登氏(小鳥と小動物の森職員)
持ち物 飲み物、動きやすい服装
申込み 7月19日(水)から電話で山と自然博物館へ

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第22回夏期教育セミナー

旧制高校の教育や文化を知り、今後の教育に生かすことを目的に、旧制高校出身者を含む市民・学生・研究者の交流の場としていただきたく開催するものです。今回のセミナーでは「女学生」に注目し、講演会や研究発表会を行います。

日時 ①講演会 8月19日(土)午後2時～5時
②研究発表会 8月20日(日)午前9時～午後3時
会場 あがたの森文化会館
料金 ①無料、1日目終了後の懇親会4,000円
②無料、昼食代1,000円
※2日間通して参加される方は、宿泊費込みで14,000円での申込みも可能です。
申込み 電話等で旧制高等学校記念館へ

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

将棋教室

窪田空穂生家を会場に将棋教室を開きます。プロ棋士4名を迎えての教室です。プロから将棋の手ほどきを受けるよい機会ですので、ぜひご参加ください。

日時 7月15日(土)
①午前の部(小・中学生) 午前10時～正午
②午後の部(大人/段位のある小・中学生) 午後1時～4時
会場 窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
料金 無料
定員 ①50名ほど、②30名ほど
講師 石川陽生七段ほか3名
申込み 電話で窪田空穂記念館へ

考古博物館から ☎0263-86-4710

第39回あがたの森考古学ゼミナール「魅力あふれる松本の山城」

日時 ①第1講7月9日(日)、②第2講7月23日(日)
いずれも午後1時～3時
会場 あがたの森文化会館 会議室2-8
※駐車場が少ないので、公共交通機関をご利用ください。
定員 各講先着60名
料金 各講200円
講師 ①「林城と林山腰遺跡～戦国時代の小笠原氏本拠をさぐる～」竹原学(松本市文化財課課長補佐)
②「松本平の山城と戦国時代」笹本正治氏(長野県立歴史館館長)
申込み 7月1日(土)から電話で考古博物館へ

考古学まるごと体験!!

勾玉づくり、火起こし、弓矢飛ばし、土器に触ろう体験をまとめて実施します。

日時 7月29日(土)午後1時30分～4時
会場 考古博物館
定員 先着30名
対象 小学生以上
料金 300円
申込み 7月11日(火)午前9時から電話で考古博物館へ

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日時 ①7月23日(日)、②8月27日(日)
午前10時～正午
会場 馬場家住宅主屋
料金 通常観覧料(大人300円)
流派 ①松風の会(表千家)、②おしやれ茶道の会(裏千家)
問合せ 馬場家住宅へ

布ぞうり作り体験教室

日時 8月26日、9月9日、10月14日
いずれも土曜日、午前10時～午後3時
会場 馬場家住宅主屋
定員 10名
対象 一般
料金 各1,800円
講師 秋山啓子氏
申込み 電話で馬場家住宅へ

歴史の里から ☎0263-47-4515

親子はた織り体験講座

はた織り機を使って裂き織りの作品を作ります。
日時 7月29日(土)、8月26日(土)
いずれも午前10時～正午と午後1時～3時
定員 各5組
対象 小学生以上の親子2名1組
料金 各1組1,000円
講師 川上裕子氏

親子草木染め体験講座

日時 7月30日(日)、8月20日(日)
いずれも午前9時30分～正午
定員 各5組
対象 小学生以上の親子2名1組
料金 各1組1,500円
講師 歴史の里草木染めの会

親子みすず細工体験講座

日時 8月19日(土)午前9時30分～正午
定員 5組
対象 小学生以上の親子2名1組
料金 1組1,500円
講師 歴史の里みすず細工の会
◎上記3事業共通
会場 歴史の里
申込み 開催月の5日から電話で歴史の里へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

体験講座「子ども民芸教室」

子どもたちが夏休みのものづくりを楽しめる教室です。布を裂いて織る「裂織」と子ども用の椅子を作る「木工」の2コースです。

日時 7月30日(日)午前10時～午後3時
会場 松本民芸館
定員 各コース10名
対象 小学校高学年以上
料金 500円(材料費) 入館料別途
講師 『裂織』山賀照子氏、『木工』竹下賢一氏
持ち物 昼食
申込み 電話で松本民芸館へ

あとがき

山と自然博物館や時計博物館だけではなく、今年は重要文化財馬場家住宅も節目の年となっています。日々の生活の中でも、これまでの歩みを振り返りながら、5年、10年先へと一歩一歩進んでいきたいものです。

(Y・T)

あなたと博物館 No.211

発行年月日/平成29年7月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL : http://www.matsuhaku.com
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社